

あなたにとって、樹齢100年の木と文化会館とどちらが大切ですか？



L'arbre, le maire et la médiathèque ou les sept hasards

'94 ベルリン映画祭正式出品作品

木と市長と文化会館 または七つの偶然

エリック・ロメール監督作品

脚本: エリック・ロメール 撮影: ディアヌ・バラティエ 録音・ミキシング: バスカル・リビエ

編集: メアリー・ステューヴン 音楽: セバスチャン・エルムス 製作: フランソワーズ・エチエガレー

出演: バスカル・グレゴリー / アリエル・ドンバル / ファブリス・ルキーニ / クレマンティーヌ・アムルー / フランソワ・マリニ / パニエ

1992年 / フランス / カラー / スタンダードサイズ / 1時間51分 / 配給=株式会社シネセゾン LA COMPAGNIE ERIC ROHMER



フランスの田舎町。

文化会館建設をめぐって市長とエコロジスト、

恋人たちがかんかんがくがく(…)

名匠エリック・ロメールが描く

ユーモラスな物語、そして意外なハッピーエンド。

カイエ・デュ・シネマ誌1993年度ベスト3に輝く秀作!

七つの偶然に導かれたユーモラスなドラマの傑作!

木の南西部ヴァンデ県サン＝ジュール市の市長ジュリアンは、野原に、図書館、ビデオとCDライブラリー、野外劇場、プールを備えた巨大な文化会館を建設しようと考えていた。ところが、エコロジストの小学校教師マルクは、予定地に生えている樹齢100年の柳の木を大切にしようと呼びかけ猛反対。市長の恋人でパリっ娘のベレニスも、農村の素朴な風景に感激し「市民会館なんて必要かしら」と言い出す。市長をインタビューしに来た女性ジャーナリストのブランディヌのルポは、編集長の独断で、マルクを中心にしたエコロジー特集になってしまう。そんなある日、市長の娘ヴェガとマルクの娘ゾエが偶然出会って遊び仲間になり、ゾエは市長にある提案をしたところ、計画は思いもよらない方向に変わっていく……。

物語は「もし…」で始まる七つの章で成り立っている…もしジュリアンがベレニスに恋をしなかったら…もしマルクが樹齢100年の柳の木にほれ込まなかったら…もしマルクの娘ゾエが市長の娘ヴェガに出会わなかったら…そして意外なハッピーエンドが仕掛けられている!

現代フランスの社会風景をとらえ、大ヒット、ロングラン上映!

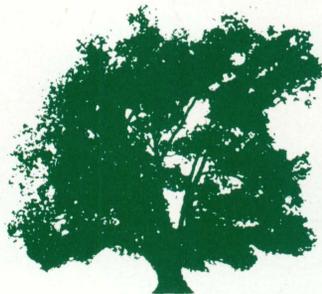
『木と市長と文化会館 または七つの偶然』



シンプルな素材をもとにした軽やかな映像。ロメールの「真夏の夜の夢」とてもいふべきファンタジーだ。
カイエ・デュ・シネマ誌
 登場人物の見事な弁舌に観客はうっとり、本物の政治家よりはるかに説得力がある。
リベラシオン紙

は、フランス映画の名匠エリック・ロメールの最新作。ウィットにとんだセリフとドキュメンタリーとも思えるような生き生きとした演出で、現代の社会風景を見事に切り取った楽しいドラマである。

主の作品は短期間・低予算で撮影され、しかも宣伝活動もほとんど行わずゲリラ的なロードショー公開となったが、フランス総選挙の二ヶ月前という絶好のタイミングをとらえ、パリで十万人を動員し、またカイエ・デュ・シネマ誌の93年度ベスト



3に選出された。監督生活30年にもわたるエリック・ロメールが、初めて時事や時代の空気に関係のある作品を取り上げ、主人公たちに田舎と都会、政治とエコロジーといったテーマをめぐってのそれぞれの意見を聞かせている。ただしこの映画の中で、政治はあくまでも議論のための背景であって、むしろ監督は、人間の意志を超えた進歩の生み出した結果や建築、都市計画について強い関心を寄せていると言う。

そして、『春のソナタ』『冬物語』と続いた《四季の物語》シリーズでは、恋人たちの情景が季節感あふれる映像に映し出されていたが、まだ夏と秋を残したシリーズの合間に撮影された本作品は、諷刺の効いた政治喜劇としての味わいと、またフランスのどかな田園地帯の魅力を伝えるみずみずしい映像も楽しみのひとつとなっている。



個性あふれるロメール映画の俳優たち、そしておなじみのスタッフ。

主人公のジュリアン役には『海辺のポーリーヌ』でロメール作品に登場、今年パトリス・シェローの大作『王妃マルゴ』で主役となるパスカル・グレゴリー。恋人ベレニスには『海辺のポーリーヌ』やダニエル・シュミットの『季節のはざまで』のアリエル・ドンパールが扮しチャーミングな表情を見せている。エコロジストのマルクに『クレールの膝』『満月の夜』『レネットとミラベル 四つの冒険』の他、『カサノヴァ最後の恋』『可愛いだけじゃダメかしら』などの個性俳優フェブリス・ルキーニ。そして女性ジャーナリストのブランディヌに、『聖杯伝説』以来のロメール作品出演のクレマンティーヌ・アムルー。またスタッフも、製作を『緑の光線』以来ずっと担当しているフランソワーズ・エチエガレーが、本作品ではマルクの妻役として出演もしているのをはじめとし、『友だちの恋人』『春のソナタ』『冬物語』のパスカル・リビエが録音を担当。編集のメアリー・ステューヴンは『飛行士の妻』に出演し、『冬物語』の編集を担当。音楽のセバスチャン・エルムスも『冬物語』を手伝っている。



偶然の出来事を通してあらわれるありのままの人間性を、面白おかしく描いた現代の寓話。

ル・ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール誌

このチラシは再生紙を使用しています

4月29日 金祝

みどりの日より

G.W.ロードショー!

特別鑑賞券1,400円絶賛発売中
 (当日一般1,700円・学生1,400円<税込>)

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系劇場にてお求めください。

INFORMATION

4/29 金祝 11:00/1:20/3:40/ティーチン/7:00

5/1 日 11:00/1:20/ティーチン/4:45/7:00

ティーチンの整理券は当日朝から劇場窓口にて配布します。

CINE VIVANT

シネ・ヴィヴァン・六本木

地下鉄六本木駅1番出口WAVE地下1階
 TEL.03(3403)6061 ●自由席定員制・入替制

連日	11:50	2:10	4:30	6:50
----	-------	------	------	------